

●今日の聖書に記された祈りは、私たちが毎週の礼拝で唱える「主の祈り」の元になっているものです。これは、イエス様が弟子たちに教えられた祈りです。二葉幼稚園の子どもたちも、毎日この祈りをクラスで祈り、自然と暗記しています。イエス様はこの祈りを通して、私たちに何を教えようとされたのでしょうか。

●ある高校の授業で「自分たちの素直な本音の祈りを作ってみよう」と試みたところ、出来上がった祈りは「わたしの名が有名になりますように」「すべて私のものになりますように」といった、自己中心的な内容でした。生徒たちは最後に、「でも、みんながこんな祈りをしていたら、世界は終わりやな」と気づいたそうです。

イエス様は、まさにそのような人間の自己中心性をご存じの上で、「主の祈り」を「われらの父よ…」と、“わたし”ではなく“わたしたち”の祈りとして教えてくださいました。この祈りは、個人の願いを超えて、すべての人と共に生きることを私たちに促しています。

●戦前・戦後を生きた画家、林竹治郎が描いた《朝の祈り》という絵があります。家族が朝の食卓で祈る姿が描かれています。母親の膝に顔を伏せて祈っている一人の男の子は、林竹治郎さんの長男・文雄さんがモデルです。文雄さんは後に医師となり、ハンセン病の患者のために尽くしました。彼は、父への手紙の中で「何より感謝しているのは、聖書とキリストの教えを与えてくれたこと」と記しています。小さな祈りの積み重ねが、一人の人生を形づくり、他者に仕え、人を癒す力となったのです。



●イエス様が教えてくださいました祈りは、私たちを自己の殻から解き放ち、神と隣人に開かれた祈りへと導きます。この祈りを通して、私たちはよりよい関係を築き、平和に満ちた社会を目指すことができるのです。そこにこそ、私たちの希望があることを覚えつつ、今週も共に「わたしたちの祈り」を大切にしていってまいりましょう。